

余暇とスポーツに関する一考察

——週休2日制の土・日休みと平日休みの比較——

福田和夫・藤原健固

A Study of Leisure and Sports

——comparison between holiday of Sat., Sun. and holiday of ordinary days in the five-day working week——

Kazuo Fukuda · Kengo Fujiwara

We Japanese working men are on a five-day working week in these years, but most of them have a holiday every Sat. and Sun.. However we can see a holiday of ordinary days, too.

In this monograph we divided into two patterns of five-day working week ; a holiday every Sat. and Sun., a holiday of ordinary days, and researched the sports participation between these patterns.

The results were as follows.

- (1) The proportion of sports participation of a holiday of ordinary days was slightly higher than a holiday every Sat. and Sun..
- (2) The practical use of the vacation with full pay must be useful for the active sports participation in near future.
- (3) It is important to look for how to use the sports facilities in the aging society.

1 はじめに

今日、日本においても週休2日制がかなり普及してきた。労働大臣官房政策調査部の調べによると、完全週休2日制ではないものの何らかの形で週休2日制を採用している企業の割合は、企業規模30人以上において全体の58.3%（平成元年）であり、昭和55年の47.6%に比べ10.7%伸びている。同じく、労働者数の割合でみると、昭和55年の74.1%から82.7%（平成元年）へと伸びている。¹⁾

週休2日制の普及に伴って問われ出したのが、余暇の過ごし方である。運動不足の解消、ストレスの発散、生きがいづくりなどの観点か

らスポーツに期待するところも大きい。

そこで、余暇にスポーツをするといった場合、同じ週休2日制であっても、土・日休みと平日休みの人では、スポーツ実施に際して取り巻かれている条件・環境に幾つかの異なる点が存在するのではなかろうか。例えば、スポーツをしたいのだけれど施設が無くて……ということをよく耳にする。そして、それは土・日休みの人に顕著に見られる。社会体育の振興に関して、施設問題は大きな柱の1つである。したがって、本研究において、週休2日制における土・日休みと平日休みのスポーツ実施に関しての相違点を明らかにし、今後のスポーツ振興、とりわけ施設の有効活用法の一助が得られればと願うも

のである。

2 調査の概要

(1) 被調査者

土・日休みの人 275名, 有効サンプル数 198 (72%) ……愛知県T市の自動車関連会社勤務者

平日休みの人 989名, 有効サンプル数 966 (97.7%) ……愛知県N市に拠点を有するサービス業会社勤務者 (表1)

表1 被調査者内訳

	性別		年齢					
	男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代
土・日休み 198名	161 (81.3)	37 (18.7)	13 (6.6)	80 (40.4)	54 (27.3)	29 (14.6)	14 (7.1)	8 (4.0)
平日休み 976名	605 (62.0)	371 (38.0)	0 (0.0)	574 (58.8)	306 (31.4)	89 (9.1)	7 (0.7)	0 (0.0)

(2) 調査内容

「休日形態とスポーツ参加に関する基礎調査」
(50項目)

(3) 調査方法

留置法

(4) 調査時期

1990年6月～1991年3月

3 余暇時間とスポーツ実施度

(1) 余暇時間の比較

① 1週間あたりでの出勤日における余暇時間の総計

1週間あたりでの出勤日における余暇時間の総計は、5時間未満が土・日休み 27.3%, 平日休み 24.1%であり、共に約4人に1人存在し、多忙さを感じる。また、逆に15時間以上と時間的余裕のある生活を送っているのは土・日休み 24.7%, 平日休み 17.8%であった。このことから、土・日休みの人に多忙な人とそうでない人の両極分化がやや多いとみることができる。なお、全体的には大きな違いはみられなかった。

② 1週間あたりでの休日における余暇時間の総計

土・日休みと平日休みとの間に大きな差はみられないが、余暇時間10時間以上と答えた人は、土・日休み 44.9%, 平日休み 52.9%であり、平日休みにやや多かった。

③ 余暇を主に誰と過ごしているか

前述①, ②から、土・日休みと平日休みの余暇時間の多少に関しては、それ程差はみられなかったが、それではその余暇を主に誰と過ごしているのだろうか。その結果、土・日休み、平日休みの両者共に一番多かったのは、「家族(土・日休み 53.5%, 平日休み 42.5%)」であり、次いで「友人(土・日休み 35.9%, 平日休み 35.3%)」であった。これら2つで、両者共大半を占めた。

また、「一人」と答えたのは土・日休み 3.0%, 平日休み 16.3%であり、平日休みに多かった。平日休みの方は、他の人と休日の曜日が異なるため一人で過ごすことが多くなることが推測される。

(2) スポーツ実施度に関する比較

① スポーツをする人の比較 (図1)

全体的には大きな差はみられないが、「毎日」,

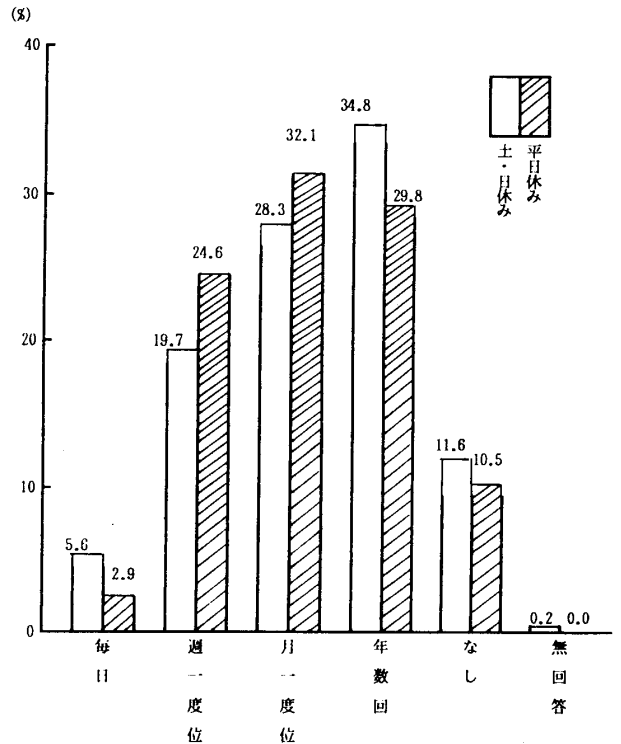


図1 スポーツをする

「週1度位」, 「月1度位」をスポーツ実施群と考えれば, 土・日休み 53.6%, 平日休み 59.6% であり, やや平日休みの人のほうがスポーツ実施度が高い。

②性別とスポーツ実施との関係 (表2)

土・日休み, 平日休み共に男性のほうがスポーツ実施者が多い。なお, 平日休みは有意差(P<0.001)が認められたが, 土・日休みでは有意差は認められなかった。

表2 性別とスポーツ実施との関係

		毎日	週1度位	月1度位	年数回	なし	無回答	計
土・日休み	男	6.2	20.5	29.8	32.3	11.2	0.0	100.0(161)
	女	2.7	16.2	21.6	45.9	13.5	0.0	100.0(37)
	小計	5.6	19.7	28.3	34.8	11.6	0.0	100.0(198)
平日休み	男	3.8	27.8	31.9	26.0	10.4	0.2	100.0(605)
	女	1.3	19.4	32.3	36.1	10.5	0.3	100.0(371)
	小計	2.9	24.6	32.1	29.8	10.5	0.2	100.0(976)

[%] ()=N

X²検定

P

土・日休み * 0.05

平日休み ** 0.01

*** 0.001

③年齢とスポーツ実施との関係 (表3)

年齢とスポーツ実施との関係をみると, 平日休みではほとんど差がみられなかったが, 土・日休みでは年配者の方がスポーツ実施者が多い傾向がみられた。なお, 土・日休みは有意差(P<0.001)が認められた。

表3 年齢とスポーツ実施との関係

		毎日	週1度位	月1度位	年数回	なし	無回答	計
土・日休み	10代	0.0	15.4	15.4	61.5	7.7	0.0	100.0(13)
	20代	1.3	20.0	36.3	37.5	5.0	0.0	100.0(80)
	30代	9.3	22.2	29.6	29.6	9.3	0.0	100.0(54)
	40代	0.0	6.9	27.6	37.9	27.6	0.0	100.0(29)
	50代	21.4	28.6	7.1	21.4	21.4	0.0	100.0(14)
	60代	25.0	37.5	0.0	12.5	25.0	0.0	100.0(8)
	小計	5.6	19.7	28.3	34.8	11.6	0.0	100.0(198)
平日休み	10代	-	-	-	-	-	-	-
	20代	3.0	23.5	33.1	31.7	8.5	0.2	100.0(574)
	30代	2.0	25.5	32.4	28.1	11.8	0.3	100.0(306)
	40代	4.5	30.3	24.7	22.5	18.0	0.0	100.0(89)
	50代	14.3	0.0	28.6	42.9	14.3	0.0	100.0(7)
	60代	-	-	-	-	-	-	-
	小計	2.9	24.6	32.1	29.8	10.5	0.2	100.0(976)

[%] ()=N

X²検定

P

土・日休み ***

平日休み

④余暇時間とスポーツ実施との関係

(a)出勤日の余暇時間 (1週間当たりの総計) とスポーツ実施との関係

土・日休み, 平日休み共に, 余暇時間が多いほうがスポーツ実施度が高いという傾向がみられた。なお, 平日休みには有意差までは認めら

れなかったが, 土・日休みでは有意差 (P<0.05) が認められた。

(b)休日の余暇時間 (1週間当たりの総計) とスポーツ実施との関係

平日休みでは, 余暇時間が多い方がスポーツ実施度が高い傾向がみられたが, 土・日休みでは差はみられなかった。なお, 平日休みでは有意差 (P<0.001) が認められた。

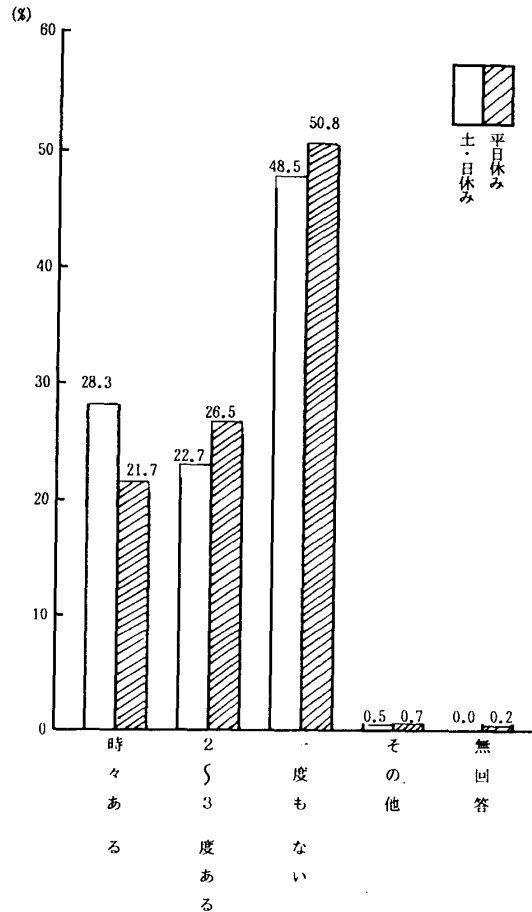


図2 スポーツのために有給休暇をとったことがあるか

⑤有給休暇の取得とスポーツ実施との関係

スポーツのために有給休暇を取った経験の有無 (図2) を比較してみると, 「有り」と答えたのは, 平日休みは 48.2%, 土・日休みは 51.0% であり, 互いに約半分を占めた。また, 「時々ある」と答えたのは, 平日休みでは 21.7% であるのに対して, 土・日休みでは 28.3% とやや多かった。これは, 例えばゴルフやテニスをするにしても土・日休みでは混雑するため, 時々有給休暇を取って平日にやっている人がいるのではないかと考えられる。

表4 有給休暇を取った経験の有無とスポーツ実施度との関係

		[%] ()=N						
		毎日	週1度位	月1度位	年数回	なし	無回答	計
土・日休み	時々ある	16.1	37.5	32.1	8.9	5.4	—	100.0(56)
	2～3度ある	2.2	11.1	42.2	42.2	2.2	—	100.0(45)
	1度もない	1.0	13.5	18.8	46.9	19.8	—	100.0(96)
	その他	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	—	100.0(1)
	無回答	—	—	—	—	—	—	—
小計		5.6	19.7	28.3	34.8	11.6	—	100.0(198)
平日休み	時々ある	6.1	34.0	36.8	19.8	3.3	0.0	100.0(212)
	2～3度ある	1.5	26.3	35.9	29.7	6.6	0.0	100.0(259)
	1度もない	2.0	19.8	27.4	34.7	15.7	0.4	100.0(496)
	その他	14.3	14.3	71.4	0.0	0.0	0.0	100.0(7)
	無回答	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0(2)
小計		2.9	24.6	32.1	29.8	10.5	0.2	100.0(976)

X²検定

P

土・日休み ***

平日休み ***

表4は、有給休暇を取った経験の有無とスポーツ実施度との関係をみたものである。これによると、土・日休み、平日休み共、有給休暇を取った経験のある人、さらには経験回数の多い人の方が、日頃よりより多くスポーツを実施している傾向が見受けられる。なお、土・日休み、平日休み共に有意差(P<0.001)が認められた。

勤労者の年間有給休暇が増加しているにもかかわらず、有給休暇の平均取得率はこの10年間で61.3%から51.5%へと約10%も減少していることが労働省の調査で明らかになった。同省は「最近の人手不足で有給休暇をとりにくくなっているのも一因」と分析しているが、労働時間短縮の実現が叫ばれている今日、時短の逆行現象の1つとして問題を投げかけている。いずれにせよ、スポーツ普及の一手段として有給休暇の有効活用が考えられるし、有給休暇が公然と取れることを望む人も少なくない(スポーツのために公然と有給休暇が取れるようになることを望むかの質問に対して、望む土・日休み52.0%、平日休み59.5%、望まない土・日休み6.6%、平日休み5.5%であった)。今後の検討課題といえるであろう。

4 これからのスポーツ観

(1) スポーツに何を期待するか

スポーツに期待するものとして、土・日休み、

平日休み共に、1位「健康の維持・増進(各39.9%、44.5%)」、2位「気晴らし(31.8%、39.5%)」であり、これら2つで全体の7～8割りを占めた。次いで、土・日休みでは、親睦12.1%、上手になること9.1%の順であり、平日休みでは、親睦7.3%、上手になること6.4%の順であった。全体的には、土・日休みと平日休みとの間で大きな違いは認められなかった。

(2) 余暇にスポーツをすることは重要か

余暇にスポーツをすることは重要であると考えている人は、土・日休み53.5%、平日休み58.3%であり共に過半数以上を占めた。また、重要でないと考えている人は、土・日休み2.0%、平日休み3.8%、どちらでもないと答えたのは各36.9%、29.6%であった。なお、全体的には、スポーツの重要性に対する認識は、土・日休みと平日休みの間に差は認められなかった。

(3) 現在の年間休日日数に満足しているか

現在の年間休日日数に満足しているか否かを見てみると、「満足していない」と答えたのは、平日休みが54.8%であったのに対して、土・日休みではやや少ない49.5%であった。しかし、両者共5割前後が年間休日日数に対して不満を持っていることが浮きぼりになった。また、「満足している」と答えたのは、土・日休み28.3%、平日休み19.3%であり、土・日休みの方がやや

多かった。これは、平日休みがサービス業に多く、週休2日制であるとはいっても、正月休み、ゴールデン・ウィークの休み、夏休み等の大型連休が少ないことが起因しているものと思われる。

最近、サービス業における週休3日制の導入が台頭してきたことも、年間休日日数増を実現し、その結果、人材の確保を達成しようとする点にねらいがあり、今後の成り行きが注目される。

(4) 休日が増えればスポーツ実施も増えるか

現在より休日日数が増えれば、スポーツをすること（機会）も増えるか否かをみると、「増える」と答えたのは、平日休み64.0%、土・日休み44.4%であり、平日休みの方が19.6%多い。これは、前述の年間休日日数に対して満足していない人が平日休みに多かったことと軌を一にしているといえる。

なお、スポーツ実施を阻む要因として、余暇時間不足がどの程度関係しているかを検討することは興味深い問題であり、今後の大きな課題の1つとして位置づけておきたい。

(5) 余暇に占めるスポーツの割合を今後もっと増やしていきたいか

余暇に占めるスポーツの割合を今後「もっと増やしていきたい」と答えたのは、土・日休みでは49.5%、平日休みでは72.3%であり、平日休みの方が22.8%多い。一方この結果から、土・日休み、平日休み共に、本来はもっとスポーツを実施したいと感じている人が多いことが示唆される。ちなみに、「現状でいい」は土・日休み38.4%、平日休み21.8%であった。

なお、土・日休みと平日休みでは22.8%もの差がみられたわけであるが、それは、平日休みではスポーツをやる気にさえなれば施設的にはさほど問題がないのに対して、土・日休みではやる気になっても施設不足の問題等に直面することが関係しているのであろうか。いずれにせよ、土・日休みと平日休みとの間でみられた22.8%の差の原因を探ることも、今後の興味深い課題の1つである。

5 スポーツ実施における土・日休みと平日休みの長所・短所

スポーツのために現在の休日の曜日が変わったらよいと考えた（感じた）ことがあるか否か、についてみると、土・日休みでは「ある」と答えたのは48.7%、「ない」と答えたのは50.6%であった。それに対して平日休みでは、「ある」と答えたのは27.8%、「ない」と答えたのは65.5%であった。その結果、スポーツのために現在の休日の曜日が変わったらよいと考えた（感じた）ことがあるのは土・日休みの人に多いことがわかった。これは、スポーツをするには平日休みの方が都合がよい、と考えている人が多いためと推測される。

そこで次において、スポーツを実施する場合、土・日休み、平日休みではそれぞれどのような長所・短所があるのかを比較してみたい。

(1) 施設借用

スポーツ施設を借りる場合、「他の人と勝ち合って大変困難である」と答えたのは、土・日休みが28.8%、平日休み10.6%であり、土・日休みの方が2倍以上多かった。なお、両者共、「どちらともいえない」と答えたのが40%近くいた。これは、例えば野球・ソフトボール・バレーボールなどのチームスポーツを行う場合、各チームの代表者が借用手続きを行い、大多数のチームメンバーはその施設借用の状況を知らないということなどが主な理由であった。

次に、各曜日毎のスポーツ施設利用状況を知りたく、愛知青少年公園協会と豊田市体育館を訪問した。しかし、適切な資料は得られなかった。けれどもその際、愛知青少年公園協会の施設利用担当者の話では、土・日・祭日は、平日に比べて申し込み件数が約20倍位多いということであった。なお、平日ならだいたい希望どなりに施設利用が可能であるとのことであった。一方、豊田市体育館でも、土・日・祭日と平日では利用者数は雲泥の差だといわれた。

また、愛知青少年公園協会において、今後の課題の1つとして、1年中しかも各曜日毎にで

きるだけ均等に利用してもらえらる方策を検討していきたいとのことであった。

(2) メンバーの集合率

メンバーが集まりやすいか否かをみてみると、「メンバーは集まりやすい」と答えたのは、土・日休み 43.9%、平日休み 25.5%であり、「メンバーは集まりにくい」と答えたのは、土・日休み 14.6%、平日休み 30.3%であった。この結果より、平日休みの方がメンバーが集まりにくいことが伺える。したがって、平日休みは、個人種目や少人数での種目は問題ないが、ある程度の人数を必要とするチームスポーツ種目は、メンバー確保において困難が生じるものと思われる。また、同じ平日休みでも、企業が統一の定休日制を採っている所と、年中無休制などのために各人が交替で休日を取っている所がある。この場合、前者は職場仲間と声を掛け合うことも可能であるが、後者の場合には、増々メンバー確保が困難と言わざるを得ない。

(3) 施設利用料

施設利用料が曜日により異なる場合が少なくない。そこで、施設利用料が他の曜日に比べて、高いか安いかをきいてみたところ、「高くかかる」と答えたのが土・日休み 28.3%、平日休み 10.0%、「安く利用できる」と答えたのが土・日休み 14.6%、平日休み 28.5%であった。したがって、施設利用の面からは、平日休みの方が得であるといえる。

また、土・日休みといっても、料金が割高になるのは厳密には日曜・祭日であり、土曜日は平日と同じ料金というところが多い。したがって、土・日休みの人もスポーツ実施を土・日曜日に心掛けるのも一方法であろう。なお、日曜・祭日に料金が割高になるものとして、ゴルフ・ボーリング等がある。

(4) 施設までの交通機関の混雑の程度

スポーツ施設までの交通機関の混雑の程度をみてみると、「混雑する」と答えたのは、土・日休み 19.7%、平日休み 5.9%であり、土・日休

みの方が多かった。また、「比較的スムーズ」とあると答えたのは、土・日休み 33.8%、平日休み 46.5%であった。この結果、施設までの交通機関の混雑面では平日休みの方が有利といえる。

スポーツを行う場合、用具の運搬や弁当の準備ということで、どうしても自動車を利用することが多くなる。遠出をする場合には、交通渋滞もスポーツ実施上のマイナス要因の1つになってしまう。

(5) 家族とのスケジュールの一致

「人間は、家族の中に運命的に生れ、そして、成長して、婚姻を通じて、子供を産み、次の世代を育成する。家族は人間社会の基礎的な集団であるとともに、その意義は重大なものがある。」²⁾しかし、今日の家族は様々な問題点を有し、家族の崩壊さえ危惧されている。その原因は奥深く、現代社会の混迷とも軌を同じくしている。しかし、前向きに家族の正常な機能を期待する時、より多くの家族間の交流（コミュニケーション）の場を設けることに努力すべきであろう。そして、その1つの交流の場がスポーツの世界といえるであろう。

そこで、家族とのスケジュールの一致ということでみてみると、スポーツをする場合、家族との休日が異なり「一緒にすることができない」と答えたのは、平日休み 44.6%、土・日休み 18.2%であり、圧倒的に平日休みが多かった。

最近、学校の週休2日制が検討され、方向としては実施に向かっているようである。今まで以上に家族の交流が問われるようになることが予測される。このような観点からも、スポーツを通しての家族の交流も貴重なものであるが、先程の結果より、平日休みはその点でやや疑問が残る。

以上の結果、土・日休みは①メンバー集合率、②家族とのスケジュールの一致、の点において優位であり、平日休みは①施設借用、②施設利用料、③施設までの交通機関の混雑の程度、の点において優位であるといえる。

6 老後とスポーツ

我が国は今日、「超高齢化社会」に向かって突き進んでいる。人口高齢化の要因は諸々考えられるが、次の2点が主要因といえるであろう。第1点は、平均寿命の延長、第2点は、出生率の低下である。

1991年6月厚生省発表の「日本の将来人口推計」によると、平均寿命は1991年現在の推計値男性76.11歳、女性81.93歳である。また、1990年度の生涯平均出生数は史上最低の1.53人であった。「平均寿命そのものが伸びることは結構なことであるが、その内容が充実していないとあまり意味がない。」³⁾ また、「人口高齢化が進み、それに伴って、福祉、社会保障、労働、家族、国民の活力などにさまざまな問題が発生してくる社会」⁴⁾ を高齢化社会という。どうやら、高齢化社会に対しては、前途多難と言わざるを得ないようである。

そこで、高齢化社会を生き抜くためには、諸々の課題を克服しなければならない。しかし、どのような時代になろうと、人間生活の根底には、健康の保持と生きがいが存在しないと意味がないように思われる。われわれは、ここしばらくの間、物質的な豊かさにこだわり過ぎてきたような気がする。今一度、物から心の豊かさへと省みることが必要ではなかろうか。それこそが、高齢化社会を人間らしく生き抜く鍵となるであろう。

物の豊かさから心の豊かさへの方向転換、さらには、現代社会において見失われがちな人間らしさ、その失われつつある人間らしさの獲得のためにもスポーツは寄与することが可能と考える。なお、ここで老後のスポーツ欲求を把握しておくことは重要である。なぜなら、高齢者がどんどん増えていく今日、現在あまり問題視

されていない施設の問題も、スポーツ欲求が高ければ将来的には施設不足の形で現れるであろう。私自身、自宅近くでいつもプレーしているゲートボールの数名の方に話を聞いてみたことがある。そうしたところ、「近所にゲートボールでもしたらいいのになあと思う人がまだまだ大勢いるけれど、反面その人たちも全員参加するようになると、現在殆ど私達専用のホームグラウンドとして使用しているこのコートも自由に使えなくなるから困る」という意味のことを話された。ここにも、施設の有効活用が図られなければならない理由が存在する。

(1) 定年後にスポーツを実施するか

定年後にスポーツを実施するか否かをみると、「はい」と答えたのは、平日休み74.3%、土・日休み58.1%であり、平日休みの方が多かった。しかし、両者共、先の話なので「わからない」(土・日休み33.8%、平日休み20.9%)と答えたのが案外多く、「いいえ」(土・日休み8.1%、平日休み4.6%)と否定したのは少なかった。

(2) 老後のスポーツ実施は重要か(表5)

老後にスポーツをすることの重要性の認識度をみると、「非常に重要」と「まあ重要」を合わせると、共に8割前後(平日休み83.5%、土・日休み79.3%)の高い数値を占めた。

(3) 老後、主に何をしたいか

老後、主に何をしたいかをみると、土・日休み、平日休み共に、第1位「旅行」(土・日休み41.4%、平日休み51.5%)、第2位「スポーツをする」(土・日休み26.8%、平日休み23.2%)であった。なお、全体的には、土・日休みと平日休みでは大きな差はみられなかったが、「ス

表5 老後のスポーツ実施は重要か

	非常に重要	まあ重要	さほど重要でない	全く重要でない	わからない	その他	無回答	計
土・日休み	29.3	50.0	7.1	3.0	10.1	0.5	0.0	100.0
平日休み	33.1	50.4	7.6	0.6	6.8	0.9	0.6	100.0

(%)

スポーツをする」が共に第2位であったことと、約4人に1人の割合でスポーツをしたいと思っている人が存在することは特筆すべき点であろう。

(4) 老後のためのスポーツを始めたいと考えているか

生涯スポーツが叫ばれている今日、高齢になっても行えるスポーツ種目はゲートボールに代表される（「定期的に運動・スポーツを実施している高齢者のうち約8割の人がゲートボール愛好者と推算され高齢者の主流スポーツはゲートボールであると考えてよいだろう。」⁵⁾）が、その種目数は体力や適正の面からも限定されざるを得ない。また一方では、実際に高齢になってから何らかのスポーツを始めたとしても、諸々の障害が生じ、結果として長続きしない。そこで、ある程度体力があるうちに老後になっても続けられるスポーツ種目を準備しておくこともある意味では大切になろう。

このような観点にたつて、老後のためのスポーツを始めたいと考えているか否かをみると、「始めたいと考えている」（平日休み31.7%、土・日休み27.3%）、「もうすでに始めている」（平日休み15.6%、土・日休み11.6%）との結果であった。この結果から、土・日休みと平日休みを比較すると、老後のためのスポーツの準備に関してはやや平日休みの方が前向きな傾向が認められるが、全体的にはそれ程差がないといえるであろう。なお、受け止め方によっては、土・日休み、平日休みを問わず、老後のことを配慮している人が案外多いと考えることができる。また、迫り来る超高齢化社会を頭の中ではかなり意識し始めている人が多いとも感じ取れる。

7 おわりに

これまでみてきた内容を次のようにまとめることができる。

- (1) スポーツ実施度は、土・日休みの人よりも平日休みの人のほうがやや高い。
- (2) スポーツ実施に際して、土・日休み、平日休み各々長所・短所が存在する。その短所を

補う1つの方法が有給休暇の積極的活用である。

- (3) 老後のスポーツ欲求には、かなり高いものがある。
- (4) 高齢化社会に対応する方策の1つとして、また施設の有効利用の観点から、今後スポーツ施設を各曜日できるだけ均等に利用されるような方策を検討していくことが必要である。

以上の結果から、スポーツ施設の利用を土・日・祭日の集中型から各曜日分散型へと導いていくことが今後の課題となる。その際、有職者は有給休暇の有効活用、また、退職後の高齢者は比較的曜日に拘束されない点を踏まえてもらいたい。

引用文献

- 1) 労働大臣官房政策調査部編 労働統計要覧1991 pp. 90~91 大蔵省印刷局 1991
- 2) 斎藤正二編著 現代社会学講義 pp. 83~84 新評論 1977
- 3) 桑野 豊編著 現代社会とスポーツ p. 8 不昧堂出版 1984
- 4) 生命保険文化センター編 迫りくる高齢化社会 p. 16 日本生産性本部 1981
- 5) 宮下充正・武藤芳照編 高齢者とスポーツ p. 88 東京大学出版会 1986